

第 5 回大阪大学野田村サテライトセミナー
学習コース
「現代社会の学力問題」

2013 年 7 月 11 日、大阪大学未来共生イノベーター博士課程プログラムのもと開設された「大阪大学野田村サテライト」にて、「第 5 回大阪大学野田村サテライトセミナー」を開催しました。大阪大学野田村サテライトセミナーでは、いくつかのコースを設けます。その 1 つが、大学等の教育機関の学知を実践的な「復興の知」に繋げようとする学習コースです。今回は、大阪大学の志水先生を講師としてお招きしました。教育社会学という分野において研究を続けておられる先生に、現代社会における学力問題についてお話しいただきました。

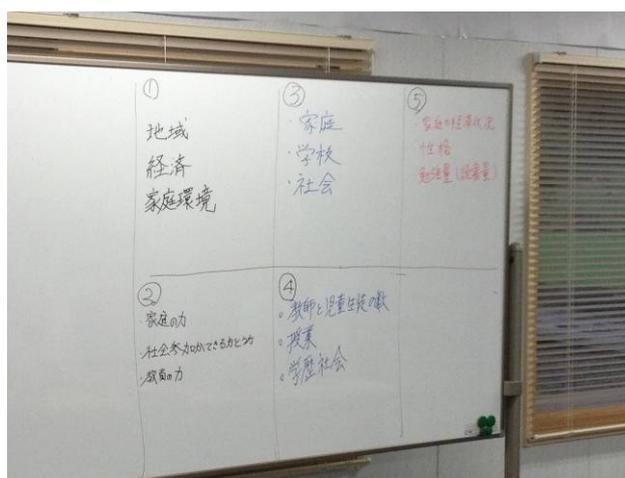


大阪大学野田村サテライト外観

第 5 回セミナーにも、野田村の方々にご参加いただき、また、遠隔教育システムを通じて大阪大学人間科学部と野田村サテライトを結ぶことで、大阪大学吹田キャンパスにいる学生も参加しました。



セミナーの様子



ディスカッションの結果

セミナーは、志水先生の自己紹介、出身地の西宮市のご紹介で始まり、志水先生による日本の学力についての概観、そしてグループディスカッションへと続きました。ディスカッションでは、地元からの参加者、野田中学校の先生方、地元の教育関係者、大阪大学の教員、学生などが入り混じり、「学力格差の要因」についてそれぞれのグループで話し合われました。さまざまな意見が出る中、「そもそも学力とは？」というような疑問も浮かび、活発な議論となりました。

ここからは志水先生による講義となり、学力を1本の樹木に例える「学力の樹」という考え方、地域間の学力格差の存在とその形、学力格差の要因となる「つながり格差」についてお話いただきました。

2007年に行われた、日本全国の小中学校で行われた学力テストでは、岩手のお隣の秋田県が1位という結果に終わりました。詳しい分析を進めて行くと、1964年のテストにおいて学力格差を生むと結論づけられていた家庭の経済や文化という要因だけでなく、現代では、「子どもがどれだけのつながり（絆）を持っているか」ということが学力に影響を与えていることがわかりました塾に通う経済力や、そもそも塾のある地域か否かではなく、地域とのつながり、家庭とのつながり、学校とのつながりが「学力の樹」を育てていくのだというお話でした。



大阪大学学生との交流

講演後の質疑応答でも、参加者の方々から多数質問がありました。「勉強が手遅れになってしまう年齢は？」との質問に、志水先生は「勉強・学習はいつまででもできる。おじいちゃんおばあちゃんになってもできる」と答えられました。野田村の将来を担う「子どもたちの学びを支える」ことを野田村の参加者の皆様をはじめ「大人たちが学ぶ」良き機会となったのではないのでしょうか。

今回のセミナーは学習コースでしたが、野田村サテライトセミナーでは今後も様々なコースを設け、多くの方に参加していただけるセミナーを目指します。また、サテライトに導入された遠隔教育システムを存分に活用し、サテライトでの研究・教育に参加できるシステムをさらに充実させていきます。次回は8月11日、内容は子どもコース「ボランティアって何だろう？」です。